

大分県立高等学校第三者評価【評価書B】

大分県教育委員会

評価実施年度	令和 3 年度	学校名	大分県立 大分南 高等学校	
学校教育目標	「気力・節・友情」の校是のもと、知的で緊張感のある学校づくり、豊かな感動体験のある学校づくりを通して、正義と真理を愛し、生きる力に満ちた心身共に調和のとれた人間を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	教科等横断的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の使命や価値、時代や社会のニーズ、学校の教育課題等を踏まえ、明確な学校経営ビジョンが策定されているか。 ○学校の教育目標によって育成を目指す資質・能力が明確にされ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・前回の訪問時に指摘した課題について、地域社会に位置づく学校としての存在意義を十分に認識し、現状を分析した明確な学校経営ビジョンを策定し、学校経営を展開している。 ・全教職員の共通理解を得るために校長のリーダーシップが十分に発揮されており、十分評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度に作成した学校経営ビジョンについては、以下の取り組みを通してブラッシュアップとコンセンサスの形成をはかる。 ①R3年度に作成した学校経営ビジョンを肉付けした、短期・中期の具体的目標と取組みの一覧を作成する。 ②新年度の当初に全職員に対して改めて、長期・中期・短期のビジョンと上記の資料を提示・説明し、職員の意識統一をはかる。
	PDCAサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の抱える課題解決に向けて目標の重点化が図られ、自己評価・学校関係者評価等を活用して検証・改善が行われているか。 ○着実な学校改善が図られるよう、校務分掌が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・課題解決に向けて計画を立て、そのために実行すべき事項(取組)などをPDCAサイクルに基づいて学校経営が展開されている。その学校経営を効果的、効率的に展開するための組織的な運営体制の整備が図られているといえる。 例)学力向上の目標を管理するため、定期的に推進会議を開催して検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・「PDCAサイクル」について、更なる改善をはかるために業務別に検証すると、現状では、対外模試と学びの基礎診断に対する結果分析と事後対応の面で改善の余地がある。それへの対応として以下の取り組みをしてPDCAを着実に回す。 ①対外模試と学びの基礎診断の実施時期の整理 ②各試験毎の分析会議の確実な実施 ③会議資料の内容と参加人員の見直しで実効性を高める
	社会との連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> ○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用や、学校便りの発行など、情報の伝達・公開を適切に行っているか。 ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・中学校等との連携や地域の外部人材を活用した取組を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・地域への「学校便り」の配布や福祉科の出前サロンの開催などにより、学校を強くアピールしている姿は評価できる。 ・保護者や中学生等に大分南高校の「生」の姿を示し、学校の実態を提示していることは社会との連携・接続に役立っているといえる。 ・今後も地域の高校として、自治会等と連携しPRを継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の取り組みを着実に継続すると共に、コロナ禍で実施できなかった以下のことにも取り組む。 ①地域の高齢者を招いての「ミニデイサービス」の実施(福祉科) ②地域行事への参加(関係部活動) ③地域での奉仕活動(生徒会)
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体としてPDCAサイクルを活用し、組織的に取り組んでいるか。 ○授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・生徒へのアンケート調査や、全教職員で授業改善等に関し共通理解を図るための研修を持つなど、積極的に改善に取り組んでいる姿は評価できる。ただ、主体的・対話的な学びについて、もう少し積極的に取り組む余地があると思われる。「集団」を活用することによる集団思考を展開するなど、生徒が主体の授業展開が望まれる。 ・生徒ヒアリングでも、教職員がもっと勉強できる環境づくりを行ってほしいなどの要望があったことなどから、教職員が行おうとしている授業改善について、細かく生徒に伝え、生徒主体の授業へ転換することが期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「実効性のある授業改善」が本校の喫緊の課題の一つであるとの認識のもと、従来の取り組みに加え以下を行う。 ①分掌機構を改編し、ICTの活用と授業改善の担当となる「DX推進部」を新設する。 ②学習支援システム・クラッシーを新規導入し、それを活用した学習指導(授業・課題等)を実践する。 ③生徒対象の授業アンケートの改善(実施時期・回数、質問内容、調査対象数等)と分析会の実施。 ④学習時間調査の改善(実施時期・回数、質問内容等)と分析会の実施。 ⑤「凱風タイム」での学習支援システム・クラッシーの活用。 ⑥授業改善や学習に関する生徒・保護者への情報発信。 ⑦授業観察、互見授業の際の観点の精選で、「本時の目標の明示」や「協働学習の場面設定」等を徹底する。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・いじめの件数は少ないようである。一方、不登校問題については、中学校からの問題、コロナ禍の影響もあり、問題が十分に解決されていないと思われる。いじめや不登校等の問題に教職員がかかわり解決策を見出そうとしている姿は見られるが、今後さらに全教職員が積極的にかかわり、組織的に解決する方策の探究が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校問題への対応が急務であるとの認識のもと、以下に取り組み従来の取り組みを強化する。 ①多欠や問題を抱える生徒に対し関係者でスクルーニングをかけ、ケース会議を着実に実施する。 ②正副担任、学年主任、教育相談部職員、部活動顧問、管理職、SC、SSWで組織的に対応する体制を構築する。 ③人間関係づくりプログラムの計画的な実施。 ④いじめに関する職員研修と生徒への啓発の実施。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・危機管理体制(防災計画)が確立されている。学校施設はきちんと整備され、安全点検等に関しても定期的な取組がなされている。通学上の事故もあまりなく、生徒自身の安全対応能力の向上も図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・豪雨等の災害やコロナ感染者発生の現実味が高まる中、緊急対応を適切に行うため従来の取り組みに加え以下を行う。 ①新導入の校務支援システム・クラッシーの双方向伝達機能を利用した家庭との連絡体制の構築。 ②自宅待機中の生徒に対する、家庭学習の指示・支援を行う体制の構築。 ③危機管理マニュアルの定期的な見直しと職員間の共有。
信頼される学校づくり	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動も時間を決め、計画的に実行されており、また学習指導も休日等教職員の負担にならないよう展開されている。 ・ICTの活用により生徒の毎朝の健康問題が管理されているなど、働き方改革が推進されているといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規導入のシステム(クラッシー)を活用し、学校でのDXを推進して働き方改革を行う。 ①課題作成機能の活用。(プリント作成の削減) ②アンケート機能の活用。(アンケートの配信と集計) ③学習時間調査、生活時間調査機能の活用。(入力シートの配信と集計) ④家庭からの欠席・遅刻連絡機能の活用。(システム上での個別の連絡で、電話不要)
	学校課題の解決に向けた取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○学力の向上に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学等を希望している生徒にとっては、学力向上に向けた取組が不十分に感じられる側面もあるので、授業改善や授業時数の見直し、授業内容の「高度化」などの措置も考えることが必要と思われる。 ・学校が掲げる「学力向上」「人間力の育成」「特別活動の充実」について、その具体的内容が生徒に伝わっていないようなので、教職員間で共有するだけでなく、生徒へも共有し、学校が掲げる課題に学校全体で取り組む方策の確立を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の取り組みにより、生徒の多様化に対応すると共に、学習と部活動の両立にも取り組む。 ①学年毎の家庭学習時間の目標時間を設定し、その達成を目指す。 ②部活動の練習の終了時刻と完全下校時刻を厳密に定め、部顧問による指導を行う。 ③上記の「授業改善」に向けた取り組みの着実な実施。 ④放課後の学習指導時間の設定により、「落ちこぼれ」も「浮きこぼれ」も作らない体制づくり。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情を踏まえて、校長(管理職)が大分南高校の「立ち位置」(役割)を十分理解し、今後10年間を見通した学校経営ビジョン等を作成し、学校経営を展開している点は評価すべきである。学校経営を展開する際、教職員との意思疎通を十分図り、校長(管理職)の「考え」に関して、教職員の理解を得ながらリーダーシップを発揮し、学校教育目標達成に取り組んでいるといえよう。今後さらなる教職員の組織化を図り、長期ビジョンの具現化に向けた学校経営が展開されることを期待する。 ・授業改善に関しては、ICTを活用した授業が定着しているようであるが、黒板への目標の掲示がなかったり、教師による一方的な話しの授業が見られた。また、生徒からはもっと勉強できる、質問しやすい環境づくりが望まれていることがヒアリングで聞かれた。コロナ禍のため、話し合いなどの協働学習ができない状況ではあるが、生徒の主体性を生かした授業が実施されることを期待したい。 ・ヒアリングの中で「朝掃除」の規程が曖昧といった声もあったので、生徒への周知を図ってもらいたい。コロナ禍において、保護者や中学生が高校を訪問しにくい情勢であることから、Hpの更新、バーチャルでの学校施設見学、学校新聞の配布や花火大会など、地域へのPRはとも評価できる点である。1回目の訪問時に指摘させていただいた多くの事項には、かなりの改善がみられ評価すべきである。今後も様々な場面でPDCAサイクルを展開し、よりよい学校となることを期待する。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在本校は、R4年度に学校創立40周年を迎えるのを機に、「南高・40thプロジェクト」を立ち上げて学校改革に取り組んでいる。今後はプロジェクトの中の各計画を実行に移していくこととなるが、第三者評価で指摘いただいた事項とその改善策を計画に取り込み、プロジェクトを着実に実行して行きたい。具体的には以下の通りである。 「南高・40thプロジェクト」の3つの柱(下記①②③) ①記念行事の開催・・・評価項目「社会との連携・接続」の、「評価」と「今後の改善策」の内容を踏まえる。 ②南高スマートスタディー・・・評価項目「PDCAサイクル」「授業の活性化」「学校課題の解決に向けた取り組み」「働き方改革」の、「評価」と「今後の改善策」の内容を踏まえる。 ③進路達成プログラム・・・評価項目「授業の活性化」「働き方改革」の、「評価」と「今後の改善策」の内容を踏まえる。 ・本校の中期目標の一つに「DXの推進による、県内最先端の学習環境・職場環境の構築」があるが、それについては、各評価項目の、「評価」と「今後の改善策」の中にある、ICTの活用に関する事項を踏まえて中期目標の達成に繋げて行きたい。 			